



神崎二山笠愛好会



神崎垣田山笠会



1 2 3 4 境内や御旅所では、町指定無形民族文化財の獅子楽をはじめ、巫女や稚児の舞いが奉納され、祭りの核として伝統行事に花を添えた。5 太鼓と共に囃子の音色が祭の高揚感を高めた。6 満身の力を込め、巨大な山笠を操るかき手たち。7 山笠の通過を示す白線が並ぶ道路。祭の余韻を残す、この時期だけの風物詩。



# 金色煌めく秋

カメラが追った、心沸き立つ2日間。  
【金田稻荷神社神幸祭、金田・神崎山笠競演会フォトレポート】

**声** は枯れ、肩はうずくとも、ただ無心に金色の山笠と向き合い、全身全霊をかける祭がここにある。10月19日・20日に金田地区で稻荷神社神幸祭と山笠競演会が行われた。約400年の歴史を誇る「金田稻荷神社神幸祭」では、5基の山笠が見守る中、境内で獅子や巫女が舞い、五穀豊穡や子孫繁栄を願う厳かな神事がとり行われた。その後、神輿を先頭に、そろいの法被に身を包んだ人々と、武者人形で飾られた山笠が行列となって地域を緩歩。その華麗で荘厳な姿に沿道の人々は目を奪われていた。

秋空が次第に夕闇へと包まれると、電飾に光が灯り、山笠がより一層煌めきを増す。今年で12回目を迎えた「金田・神崎山笠競演会」では、金田と神崎地区から計7基の電飾山笠が金田イベントパークに集結。山笠が2基ずつ競演場に入ると、互いにその巨体を上下左右に揺らす「がぶり」や、傾きながら回転する「練り回し」を豪快に披露した。心一つに絢爛さと勇壮さを競うその姿は、2日間で延べ約1万人の観客を魅了した。

太鼓と囃子の音色や腹の底から張り上げられたかけ声が秋空に響き、5ヶを越える山笠が躍動した2日間。今年も多くの人々が集い、その活況を心に焼き付けていた。